

⑤ 昭和40年9月「県政ニュースNo.72」

【県史編さん事業完成】

昭和29年から行われていた県の歴史を綴る県史編さん事業が完成しました。秋田市美術館には県史編さんの土台となった莫大な資料の中から、官報や検地帳などの古文書が展示され、連日人目を引きました。10年余りの年月をかけて完成した

「考古編」から「昭和編」までの16巻には、秋田の歴史が克明に記されています。また県の正庁では、松橋副知事をはじめ関係者多数が出席して完成祝賀会が開かれました。県史編さんに功績のあった顧問や委員に、感謝状や記念品を贈りその労をねぎらい、長かった事業の完成を祝いました。



⑤ 昭和40年9月「県政ニュースNo.72」

【ふるさと散歩…竿灯】

400年の伝統を誇る秋田の竿灯は、仙台の七夕、青森のねぶた祭りと共に、東北三大祭りのひとつにあげられている。竿灯は五穀豊穡を祈る祭りで、その形は稲穂をかたどっている。29代佐竹義和公が城中でご覧になってから一層盛んになったといわれる。祭りの裏方ちょうちん屋さん。昔は数十件あった店も今は市内にわずか3軒を残すだけである。ちょうちんに付ける町々の紋は少なくなり、最近は宣伝用のちょうちんがめっきり増えたという。

8月に入ると、祭りを待ちきれない町内の人たちが一斉に準備にかかる。祭りの朝、各家々では身支度に大わらわである。町内の人たちは千秋公園にある佐竹公の守護神を祀る八幡神社に祭りの安全を祈願する。夕闇迫る頃、各町内から印ばんてんにはちまき姿の若集が囃子に合わせ集まってくる。およそ100本の竿灯に灯が入ると、若集はお囃子に合わせて50キロもある重い竿灯を額や腰で自由に操る。夏の夜空を彩る華麗な竿灯の灯は、短い秋田の夏に終わりを告げる灯でもある。

～次回は11月3日(月)文化の日開催予定です～

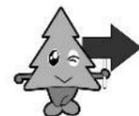
■ 秋田県公文書館 ■

〒010-0952 秋田市山王新町14-31

TEL 018-866-8301

FAX 018-866-8303

E-mail koubun@apl.pref.akita.jp



【公文書館からのお知らせ】

平成26年度企画展「アーカイブズで秋田の文化を探れ！」

前期：8月23日(土)～9月23日(火)

後期：10月31日(金)～11月30日(日)

当館2階特別展示室にて開催中！

ハッピー・バースディ AKITA!! 「8月29日」は県の記念日です。

# 県政映画上映会

## ～懐かしき昭和三十年代の我が秋田～

平成26年8月31日(日) 秋田県公文書館 3階 多目的ホール  
午前の部 11:00～正午 午後の部 14:00～15:00

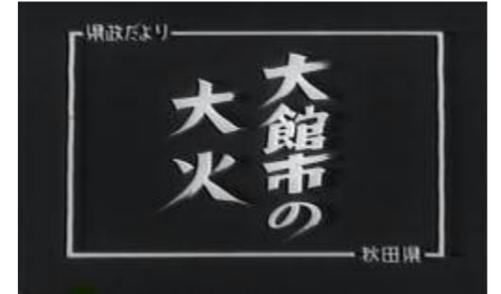
### 本日のプログラム

#### ◆ ごあいさつ ◆

#### ◆ 前半 ◆

① 昭和31年「県政だより 特報」

- ・ 特報 大館市の大火
- ・ 八幡平 国立公園に指定



② 昭和32年8月「県政ニュースNo.6」

- ・ 夏の健康を守る(秋田市)
- ・ 進む郷土の建設(能代市・旧象潟町上郷・旧平鹿町浅舞)
- ・ トピックス…新大臣のお国入り
  - …町にも村にもサイロづくり(秋田市下新城、金足)
  - …商工祭開く(湯沢市)
- ・ 自然林にいどむ(旧ニツ井町仁鮒)

#### ◆ 後半 ◆

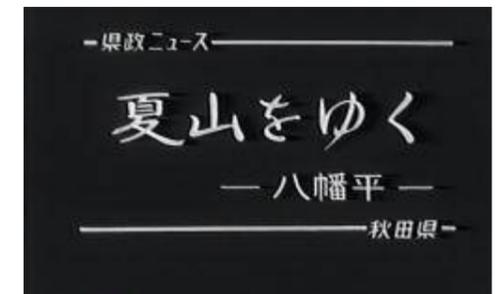
③ 昭和35年9月「県政ニュースNo.29」

- ・ 第11回県体開く(秋田市ほか)
- ・ 果樹共同化の村(旧平鹿町醍醐)
- ・ 畜産振興めざして(旧十和田町ほか)
- ・ 県民の窓…楢岡焼き(旧南外村)



④ 昭和38年5月「県政ニュースNo.48」

- ・ 小畑知事初登庁
- ・ シーズン間近に～花火づくり
- ・ 干拓工事進む(八郎潟)
- ・ ふるさとの民芸品～かば細工



⑤ 昭和40年9月「県政ニュースNo.72」

- ・ 夏山をゆく(八幡平)
- ・ トピックス…県の記念日制定・県史編さん事業完成
- ・ ふるさと散歩…竿灯

# ～はじめに～

郷土秋田のニュース映画を5本上映!



かつて「県政映画」は、「県政だより」「県政ニュース」などの名前で、県内各地の映画館で本編映画の幕あいに上映され、その時々々の県政に関するニュースや各地域の話題を提供していました。

秋田県公文書館では、これら県政映画を保存し閲覧室で公開しておりますが、スクリーンで上映し大勢でご鑑賞いただく上映会も開催しております。

今回はこの秋開催される国民文化祭にちなみ、伝統工芸や生活文化など「秋田の文化」に関する話題をはじめとした5本の作品を上映します。

どれも当時をしのばせる貴重な映像ばかりです。ノスタルジーあふれる昭和30年代の秋田をぜひご覧ください。

## ② 昭和32年8月「県政ニュースNo. 6」

【自然林にいとむ（ニツ井町仁鮎）】 本県には県面積の約7割を占める森林がありますが、米代川上流地帯には今なお天然の密林が空を覆い、全国にゆるぎない森林王国を誇っています。ニツ井町仁鮎から16キロの奥地、昼なお暗い自然林の中では、杉の巨木に挑む杉夫たちによって壮観な夏の伐採が始められています。ここから切り出される原木は年間23万石、一日800石で、現場からは森林軌道で仁鮎の貯木場に運ばれます。川に投げ出された原木は、出発前日に筏に組まれますが、筏一枚の原木の量は約100石。こうして筏は、老練な筏師に操られながら朝靄の立ち込める米代の流れを、能代に向かって下るのです。



# ～ナレーション採録～ ■ナレーションの一部を採録しました■



## ① 昭和31年「県政だより 特報」

【八幡平 国立公園に指定】 雄大なる自然景観をもって知られる八幡平が、新たに十和田八幡平国立公園として発足しました。国立公園の編入を祝って、去る7月28日、秋田・岩手の両県知事は、1,600メートルの頂上に記念塔を建て、長い間の念願であった国立公園の実現を喜び合いました。八幡平は十和田と田沢湖の中間にある高原地帯で、秋田側の登山口はトロコ温泉から蒸

の湯を通るコースと、玉川温泉から焼山・後生掛・蒸ノ湯を通るふたつがあります。

それでは夢の高原、八幡平をご案内いたしましょう。玉川温泉はお湯の豊富なことで有名で、摂氏100℃近い熱湯が噴き出す様はまことに壮観です。この湯は酸性が強いことで知られ、付近には天然記念物北投石があります。玉川温泉から約5キロで焼山にかかりますが、茶褐色に焼けた山肌を登りつめると、やがて高度1,300メートルの名残峠に達します。このあたりは奇岩怪石の立ち並ぶ鬼ヶ城です。各所に散らばる大小の噴火口は、八幡平火山活動の激しさを物語っています。やがて毛せん峠です。緑の毛せんを敷き詰めたようなガンコウランの群落が続き、その間をとりどりの高山植物が咲き乱れています。後生掛温泉に着きます。この付近は火山活動の最も激しいところで、もうもうたる湯気に覆われている大湯沼。激しい地鳴りとともに絶えず熱湯やガスを噴き上げている噴気孔、また、世界でも珍しい泥火山などがあります。後生掛温泉から3キロ、子宝の湯で名高い蒸ノ湯温泉に達します。さて、ようやく頂上に着きました。はるか南には鳥海山・駒ヶ岳、東には岩手山を望むことができます。広々と青く澄んだ八幡沼のほとりには、真夏の残雪を楽しむ登山者の群れが見え、美しい高山植物も咲き乱れています。こうして八幡平は東北の一大自然公園として親しまれ、年々多くの人々が訪れることでしょう。



## ③ 昭和35年9月「県政ニュースNo. 29」

【県民の窓…榑岡焼き（旧南外村）】 大曲市からバスで40分。ここ仙北郡南外村南榑岡に住む小松幸一郎さんは、「榑岡焼き」で全国の陶器を愛する人々に親しまれている人です。榑岡焼きは、今から約100年前の文久3年に、初代の小松さんが佐竹藩士から製法を習ったのがはじまりで、幸一郎さんはその四代目。単なる土のかたまりも、小松さんの手にかかると見事な造形美をかたどっていきます。このように足で蹴る「蹴りろくろ製法」は、今では文化財的価値のある珍しいもの。榑岡焼きは陶質が丈夫で、素朴な親しみのある美しさが特徴です。県民に広く親しまれてきた榑岡甕をはじめ、湯飲み、こま犬の花さしなど数々のものがありますが、これらの素朴で美しい焼き物の伝統は、小松さんの努力によってますます高められ、現代にマッチする本県の新しい陶器としてその地位を築いていくことでしょう。

## ④ 昭和38年5月「県政ニュースNo. 48」

【ふるさとの民芸品～かば細工】 城下町の名残をとどめるここ角館町は、樺細工の町として知られています。樺細工は今から180年前に阿仁町からこの町に伝わったものといわれ、武士の手内職として時の藩主の熱心な保護奨励によって発達し、今日に伝わってきたものです。樺細工の名工の一人小柳金太郎さんは、この道に入っただけで30年。製品が大衆化され量産化されていく中であって、小柳さんは現代の工芸作品として立派なものを作り、昔からの技術を守り育てていこうとしています。単なる桜の皮も、小柳さんの手になると見事な工芸品として形作られていきます。樺細工は、秋田の特産品の中でも特に広く国内の人々に親しまれてきましたが、ブローチ・カフスなど新しい製品も先頃開かれた国際日本市でなかなかの好評でした。角館町に作り続けられているこの樺細工は、すぐれた郷土土産品として、また、格調高い工芸品として愛されていくことでしょう。



「県の記念日」とは？  
明治4年の廃藩置県によって「秋田県」が誕生した8月29日を記念し、昭和40年に制定されました。

秋田県は今年（平成26年）で、143歳を迎えます。

